

## 第 230 回地質調査所研究発表会講演要旨\*

### 特集 火山、恵みと災害

1986 年伊豆大島, 1989 年伊東沖海底, 1990 年から続いている雲仙普賢岳の噴火など, 我が国では火山の噴火が相次ぎ, 多くの災害をもたらされました。これらの噴火活動を通じて, 私たちは火山災害を軽減させるための研究が早急に必要であることを痛感させられました。一方, 伊豆大島では, 噴火後に新たに温泉ができ, 利用されるなど火山の恵みも実感させられたこともまた事実です。防災の立場から, また恩恵を受ける立場から, 火山の実体を知ることは重要です。地質調査所ではこの両方の角度から火山の研究を行っています。本講演会では最近の火山活動の様子や火山の研究の最新情報を紹介しました。ここでは, プログラムを紹介します。

#### 雲仙普賢岳の火山活動と研究者の果たしている役割

るのかについて述べる。

(環境地質部)

太田一也

198 年ぶりに噴火活動を開始した雲仙普賢岳は, 山頂火口からの溶岩の噴出, 溶岩の崩壊による火砕流の発生, さらに土石流の発生など現在でも予断を許さない状況にある。このようなときに研究者として何をすべきかを考える。(九州大学島原地震火山観測所長)

#### 雲仙火山の噴火と地質調査所の観測体制

須藤 茂

雲仙火山の噴火では, 噴出物に近づくことができないため, 地質調査所では, 従来の方法とは異なり, 専ら遠隔手法により観測を行っている。様々な手法を用いることにより, 噴火活動の予知にも貢献することができた。(環境地質部)

#### 火山岩が語るマグマの情報

川邊禎久

火山岩にはマグマの情報が詰まっている。大島, 雲仙などいくつかの例で, これまでどんな手法でどんなことがわかったのか, また将来どんなことを知ることができ

#### 火山ガスからわかるマグマ活動の実体

風早康平

伊豆大島の噴火では, 溶岩の噴出活動が終わっても, 1 日当たり何トンもの火山ガスが噴出し続けたことが明らかになった。この火山ガスの研究から, 地下のマグマの状態や脱ガスの機構を推定する。(地殻熱部)

#### 日本人と温泉

大木靖衛

日本では古くから国が行詰まり, 新しい発展を探るとき, 大プロジェクト「温泉探究」が行われてきた。どうして, 私たち日本人はこうも温泉が好きなのだろうか, わからないね?(新潟大学積雪地域災害研究センター)

#### 伊豆大島火山の噴火でできた温泉 一小清水(浜の湯)温泉

高橋正明

伊豆大島火山の 1986 年噴火の後, それまで井戸水として使用されてきた地下水の温度が上昇し, ついには 60°C を超える温泉となった。温泉の成因と火山活動の関連について考える。(地殻熱部)

\* 平成 6 年 6 月 27 日 東京, 石垣記念ホールにおいて開催  
主催 工業技術院地質調査所, (財)日本産業技術振興協会